

令和2年度第2回愛南町入札監視委員会 審議概要

開催日及び場所	令和3年1月21日（木）午後2時から 愛南町役場本庁 2階 第1会議室	
出席委員氏名	委員長 木下 尚樹（愛媛大学大学院理工学研究科准教授） 委員 増田 裕（税理士） 委員 青木 千之（元愛南町監査委員） 委員 山下 道和（元愛媛県建築住宅課長）	
審議対象期間	令和2年7月1日～令和3年11月30日	
抽出案件	総件数 6件	（備考） 抽出の考え方 無作為に案件を抽出。（青木委員が案件を抽出。）
一般競争入札	5件	
指名競争入札	0件	
随意契約	1件	
委員からの意見・質問、 それに対する回答等	質問・意見	回 答
	別紙のとおり	別紙のとおり
委員会による意見の具申 又は勧告の内容	なし	

別紙

意見・質問	回 答
<p>議題1 令和元・2年(1~12月末時点)愛南町入札契約状況について</p> <p>・特になし</p> <p>議題2 抽出事業の審議について</p> <p>【一般競争入札について①】</p> <p>・土木工事において入札参加業者が少ないと思われるが競争入札の原理から見ると、この状況をどう捉えているのか。</p> <p>・若手技術者の育成に関する取り組みを行っているのか。</p> <p>【一般競争入札について②】</p> <p>・競争入札60件全て入札1回目で落札している。予定価格事前公表の中ではあるが、設計の方法、予定価格について検討の余地があるのではないか。</p>	<p>・入札参加可能な業者については、愛南町建設工事執行事務取扱要綱第4条で定められている、事業費ごとの指名業者数以上が対象となるように設定しており、競争性は確保されていると考えている。</p> <p>入札参加業者が少ない状況については、手持ち工事や技術者の数、官公庁が公開している一年間の発注見通し等を業者が考慮した結果であると推測している。</p> <p>・総合評価落札方式の評価項目において、配置予定技術者の育成取組として、若手技術者の配置についての評価基準を設定している。</p> <p>・設計の方法については、入札日直近の単価を反映した設計を行い、国、県事業であれば、審査を受け、適正な設計金額を採用している。予定価格については、設計金額の一部を控除する行為である「歩切り」が違法となっていることから、設計金額を予定価格として入札を行っており、基準単価表等に記載されていないものについては複数社から見積もりを取るなど、より適正な設計に努めている。</p>

<p>【随意契約・一般競争入札】</p> <p>R2 水産物供給基盤機能保全工事（分割の3） ほか5件</p> <p>・各漁港において、地区別の発注は考えていないのか。</p> <p>議題3 その他</p> <p>特になし</p>	<p>・現在の発注方法は、工事費の削減や事務負担の軽減等を考慮し、町内19箇所の漁港毎に工種別で発注している。地区別の発注については、工期の短縮を見込む場合や、発注工事件数の減少に起因する過度な価格競争が発生した場合等に検討したいと考えている。</p>
---	--